

はじめに

6月12日（金）・13日（土）の両日、P T Aの県外研修で宮城県立仙台二華中学校・高校を訪問する機会をいただいた。¹⁾ 宮城県立仙台二華中学校・高等学校（以下仙台二華高校とする）では、昨年度からS G Hに指定されており、その点から本校との比較および本校がS G Hを実施するに際し参考となる、もしくは参考とすべき点からこの文を書きたいと考える。

1 仙台二華高校のS G Hについて

仙台二華高校では、「地球環境」をテーマとして探求学習を行ってきた。²⁾ これをベースとして「世界の水問題」に関する国際的な取り組みを行っている。そもそも、前述の探求学習として具体的には人文・社会科学系講演活動、国際交流、巡検、自然科学系講演活動となっている。さらに、国際交流、国際理解教育としてアメリカ合衆国デラウェア州ミドルタウン高校に20名と教師2名が訪問している。さらに海外研修としてシンガポール・マレーシア方面とグアムにそれぞれ行っている。

2 S G Hを成功させる必要な要件

① 大学との連携

S G Hを成功させるために必要なことは何かと考えると、一つは「外部組織との連携」であり、もう一つは時間の確保であると考えられる。³⁾

仙台二華高校の外部組織との連携は、大学に関しては東北大学と宮城教育大学である。この二つの大学からタイからの大学院への留学生を講師として毎週2人派遣してもらっている。さらに東北大学から週2時間の課題研究の時間に講師を派遣してもらっている。この点に関して東北大学が近くにあるという地の利を十分に生かしており、本校がS G Hを行うためには、提携大学である明治大学、国際大学のみならず、県内にある他の大学とも連携する必要があると考えられる。

② 他の外部組織との連携

仙台二華高校は、J I C A、仙台市国際交流協会、企業などと提携をもち、それぞれの団体から講師や指導を受けている。特にJ I C Aとは、東南アジアでのフィールドワークなどに関して現地でも指導を受けている。このような点に関しても、外部組織とのネットワーク構築が本校でも急務となると考えられる。

1) 訪問日程は6月12日・13日両日であったが、二華中学校・高等学校に訪問したのは1日目の12日（金）であった。

2) その探求学習は、「I S（インターナショナル・スタディ）」・「S R（サイエンティフィック・リサーチ）」という。それぞれ社会・人文科学系の視点と自然科学系の視点から探求するものである。

3) 大阪にある大阪府立北野高等学校を訪問した際、伺った話ではあるが、京都大学や大阪大学、関西学院大学などから講師をかなりの頻度で講師を派遣してもらっていると伺った。また、O G・O Bの人脈で色々な業界から取締役レベルの人たちを講師として派遣してもらっていた。

③ 時間数の確保

仙台二華高校では、1年次に課題研究Ⅰとして3単位分の時間を確保している。これは、1学年全員必履修であり、全員で北上川・八幡平でフィールドワークを行う。2年次においては課題研究ⅡAもしくは課題研究ⅡBを選択で行う。課題研究ⅡAは、3単位で、数十名がメコン川について東南アジアでフィールドワークを行う。課題研究ⅡBは、単位数1で、160～200名が選択する。3年次では、課題研究Ⅲが設置されている。この課題研究Ⅲは、2単位であり20名が選択予定となっている。想定として課題研究ⅡAを選択した生徒を前提としており、課題研究ⅡAをさらに深化させる内容となっている。このように多くが2単位以上課題研究について時間を確保しており⁴⁾この時間内で完結させるようにしているとのことである。

むすびにかえて 本校での課題

最後に本校でSGHを行う際の課題となるであろうことについて論じたい。まず第一に恐らくこれが最大の問題となると考えられるが、大学入試との整合性である。確かに学力を凶る尺度がここ数年変わって来ている。しかし、SGHで求められるもしくは構築されるであろう能力と大学入試で問われる能力は、必ずしも一致しないことについては、多くの人が賛成するところだろうと考える。このギャップをどう埋めるかである。二華高校の進路指導部の先生は、「SGHを評価してくれる大学は、AO入試や一部の入試で増えるであろうから⁵⁾、その部分をねらっていきたい」と言っていた。この点に関して、本校でも難しい選択を迫られることになりそうであるし、今後の課題でもある。時間をある程度限定し、その中でSGHの事業を行っていくこと、また、SGHの冠をつけることによって他の事業もSGH化することも必要であるかもしれない。さらに時間数を確保するためにカリキュラムの変更もしくは、内容をSGHにつなげることも必要であろう。仙台二華高校では、SGHを行うために英語に関して振り替えを行っている。時間を設定し、その中で完結させることが本校には必要であると考えられる。第二に、SGHは、生徒主体の学習であるため、どのように主体性を持たせるかである。仙台二華高校、学年があがるにつれて生徒を絞っている。本校でSGHを実施する場合、どこまで主体的に生徒をやらせるか。今後の本校での課題となると思う。最後に、仙台二華高校のようにどこまでSGHに関して学校全体で取り組めるかがこの事業を成功させることができるかどうかのカギであり、本校の課題であると考え。組織の構築がそのカギであるのだろうと考えるが、組織の構築については、また別の機会に論じたいと考える。

4) 前述の北野高校では、土曜日に「校内留学」という時間を設けて、英語力のプレゼンテーションやエッセイ作成(作文)のスキルアップを行っている。

5) 確かに、私立では関西学院大学がSGH枠で入試を行うということがすでにわかっている。また、京都大学、大阪大学あたりでは、SGH枠を設けないが、入試に関してこれらの活動を評価することを検討すると言っている。また、筑波大学も同様の動きがある。